

令和 3 年 8 月の解説（府県天気予報）

【8 月の天候状況】

上旬は、北日本、東日本、西日本では、4 日から 6 日頃にかけて東から太平洋高気圧に覆われて晴れた所が多くなった一方、7 日頃までは、日本の南で対流活動が活発で、沖縄付近に熱帯低気圧が多い状態が続きました。1 日頃には上空の寒気や三陸沖を北上した熱帯低気圧の影響で、3 日頃に近畿地方付近に進んだ熱帯低気圧などの影響で大雨となった所もありました。5 日に沖縄付近で発生した台風第 10 号が 8 日頃に日本の南を北東進し、9 日から 10 日頃にかけて台風第 9 号が西日本を北東進し温帯低気圧となった後、日本海沿岸付近を通して東北地方を東進しました。これら台風や温帯低気圧の影響で島根県では線状降水帯が発生し、北日本、東日本、西日本では日本海側を中心に各地で大雨、大荒れの天気となり、太平洋側でも突風による家屋などの被害がありました。沖縄・奄美では、熱帯低気圧や台風第 9 号、第 10 号などの影響で湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりましたが、10 日頃には東から太平洋高気圧が張り出して晴れとなりました。平均気温は、6 日頃まで晴れた日が多かったため東日本で高く、暖かい空気にも覆われた北日本はかなり高くなりました。北海道でも猛暑日の所があったほか、8 日には岐阜県多治見で 40.6℃を観測するなど、3 日から 8 日にかけては全国のアメダスの 100 地点以上で猛暑日となる日が続きました。

中旬は、北海道付近では、オホーツク海に中心を持つ高気圧が張り出して晴れたところもありました。一方、太平洋高気圧が日本の南で西に張り出し、日本の西で上層の気圧の谷が停滞したため、東日本と西日本付近では前線が停滞し太平洋高気圧の縁辺や中国大陆からの湿った空気も流れ込んで、雨の日が続きました。このため、東日本と西日本で日照時間がかかなり少なく、降水量はかなり多くなりました。利用可能な全国 1029 のアメダス地点を対象とした降水量の総和は 235,788.5mm(1 地点あたり約 229.1mm)となり、これまでで最多の 2018 年 7 月上旬の 218,844.0mm(1 地点あたり約 212.7mm)を超えて 1982 年以降で最も多くなりました。断続的に非常に激しい雨や猛烈な雨が降った所もあり、長崎県雲仙岳で 24 時間降水量が 571.5mm を記録するなど、各地で記録的な大雨となり、西日本では線状降水帯も発生して特別警報が発表された府県もありました。西日本日本海側、太平洋側の日照時間はそれぞれ平年比 23%、10%で、8 月中旬として 1961 年の統計開始以来 1 位の寡照となり、東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側の降水量はそれぞれ平年比 483%、768%、766%で、8 月中旬として 1946 年の統計開始以来 1 位の多雨となりました。北日本、東日本、西日本の平均気温は、寡照や下層の寒気が流れ込んだ影響などによりかなり低くなりました。特に、西日本の平均気温は平年差-3.1℃で、8 月中旬として 1946 年の統計開始以来 1 位の低温となりました。

下旬は、23 日頃にかけて、北海道付近では千島付近に中心を持つ高気圧が張り出して晴れたところもありました。沖縄・奄美では、22 日頃に台風第 12 号が北西進し、曇りや雨となりましたが、その後は太平洋高気圧が東から張り出したため、晴れた日が多くなりました。華北付近の上空に気圧の谷が停滞した影響で日本海では前線を伴った低気圧が繰り返し通過し、北日本、東日本、西日本ではこの前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。25 日以降は、西日本太平洋側を中心に太平洋高気圧に覆われやすかった一方、日本海やサハリン付近を低気圧が繰り返し通過したため、本州付近は南から暖かい空気が流れ込みやすく、北日本付近や東日本及び西日本の日本海側は、低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨の日がありました。降水量は、前線でまとまった雨が降らなかった北日本日本海側と東日本、西日本太平洋側で少なくなりました。日照時間は、太平洋高気圧に覆われた沖縄・奄美でかなり多くなりました。

【8 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 3 ポイント高い 83%で、明後日予報は例年値より 5 ポイント高い 81%でした。地方別の適中率では、明日予報は、九州北部を除く各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、東北で例年値と同じだった以外は、

各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃大きい 1.8℃で、関東甲信と東海で例年値と同じ、沖縄で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値と同じ 1.1℃で、関東甲信、東海、中国、四国、九州南部、沖縄の各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10 月の天気予報の利用にあたって】

秋になると、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過するようになり、天気は数日の周期で変わるようになります。低気圧が急速に発達しながら日本付近を通過する際には、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。天気予報で大雨や強風などが予想される場合は、最新の気象情報や警報・注意報などに十分留意して下さい。